

## 第7回 中標津町都市計画マスタープラン 策定委員会 議事録

◇開催日時：令和2年11月18日（水）14時30分～16時30分

◇開催場所：中標津町役場 301号会議室

◇参集者：委員22名中13名出席

（欠席者：東田秀美、長淵義男、田村正弘、村元雄一、加藤昌之、栗崎勝秀、細谷俊輔、上原成二、飯野哲弥）

### 1. 開会

（天野課長）

皆様お疲れ様です。それでは、定刻を過ぎましたので、只今より第7回中標津町都市計画マスタープラン策定委員会を開催いたします。

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。これまで、新型コロナウイルス感染拡大の防止をしながら、第6回の委員会、そして5つのプロジェクトチーム会議の創設、2～3回程度のプロジェクト会議を開催しまして、先日最終のプロジェクト会議を開催し、各チームからの発表をいただきました。本日は、これまで皆様にご審議いただいた項目と、各プロジェクトで考案された取組を網羅して、新中標津町都市計画マスタープラン素案として、皆様にご示いたしますので、ご審議の方をよろしくお願いいたします。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を施しながらの会議開催となりますので、アクリル板の設置や、換気をしながらの開催となることから、寒さ対策など各自で対策をとっていただければと思います。

本日の委員会開催については、委員の半数以上の出席がありますので、会議が開催できることをご報告させていただき、会議を進めてまいります。

### 2. 小林委員長からの挨拶

（天野課長）

それでは、議事に入りたいと思います。議事の進行については、小林委員長に進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（小林委員長）

策定委員会、参加していただきありがとうございます。明日、東京に行って霞ヶ関の会議があるんです。世界中がコロナショックを同時に体験して、これから都市やまちづくりを同じような考え方でやっていいのか、6～7月からずっと議論しているんです。明日は市街地整備、街全体をどう考えるかという、どちらかという土木・建築っぽい世界。明後日は、まちづくり推進課。これは、商店街だとか、地域のコミュニティだとか地元の人と一緒にやっていくのを応援しようという。先週は、道路局の人とやりました。

たくさんキーワードが出てきているんですけども、簡単に言うと、都市計画マスタープランの制度は30年前にできている。その頃は20～30年先を予測して目標をたてて、それを少しずつやっていくという考え方が都市計画だとかまちづくりの考え方がベースだったんです。去年くらいから、もう少し違う考え方が必要だと強調されるような、それは何かという

と、トンカチを使う時代はもう終わったと、今までずっと道路や下水や公園を作ってきたけれども、その中で本当にまちの人が安心で安全で、この間F E C Tという話をしましたけれども、住み続けて行けるのか。皆さんの世代じゃなくて、これからの小中学校の子供たちが、全員でないかもしれないけれども、中標津にプライドを持って住み続けていくことができるのか。そういうことの方が大事ではないか。

だからトンカチでどんどん作っていくのでなく、今まで作ってきたものを最大限活用して、他のいわゆる土木・建築の世界だけでなく、教育だったり医療、福祉、コミュニティなど色々な世界を横つなぎしながら、最大活用していくのが大事じゃないかと、そういう風に方向性が変わってきたんです。

総合計画と長期計画とか、みんな好きだったけど、ビジョンを高々と掲げて、例えば人口何人を目指しますだとか、がむしゃらにやっていく、そういうやり方ではないだろう。つまり町には、大きな例えば地震だとか、火事だとかショックもあります。だけど、日々目に見えないけれど、高齢化が進行しているとか教育格差が進んでいるだとか環境が破壊されているだとか、気が付いたらまちがおかしくなっているよね。隣近所の付き合い方が変わってくるとか。そういう気が付かない日々の変化に対してきちんと対応していく進め方が大事じゃないかと、7～8年前から考え方が随分変わってきた。

だから、総合計画ってどこの町も作りますけれど、あれは、地方自治法という法律で、長期ビジョンに基づいて各町が作らないといけないんです。それは住民を参加させて当然ですけども、各部局に横断して作っていく。それは、議会に承認をもらって、とにかく総合計画を基にして邁進していくんだ、そういう位置づけのものなんです。ところが、今の総合計画は地方自治法に基づかなくてもいいので、議会に説明する必要はないんです。

もう一回繰り返しますけれど、言葉としてうまく伝わらないかもしれないですけど、「アジャイルな計画」というのがキーワードになる。「アジャイル」※とは臨機応変とか問題をすぐに解決できるとか、そういう意味なんですけど、もう少し分かりやすく言うと、ビジョンとか構想というのは、「作っただけではダメだ。絵に描いた餅ではダメだ。実行しなければダメだ。実行しないビジョンは嘘だ。」という考え方が裏にあるんですけど、将来を考えると、スコープ、遠い先の姿ですね、それから時間とコストが大事だ。コストはお金ばかりじゃなくて人の力、人のエネルギーとか努力も含めてです。3つがまちをつくるときに大事なんです。だからスコープを実現しなければならないというときに、積み残しはないですねとチェックをしてきたんですけど、それが計画だったんです。そうではなくて、スコープよりも、いつまでにどれだけの努力と時間をかけて実現したのか。スコープは、遠い将来は予測できないですから、ある時までこれをやる。出来ないときはスコープを作り直せばいい。というふうに変わってきているんです。さっき言ったように、「道路長くする」「住宅地を広くする」そういうことではなくて、住み方を考えつつ、住み続けていけるような工夫をして、「道路や公園、作ったけど本当に使っている?」、行政が「道路は座っちゃいけない」、「そうじゃないだろ、道路を使いながら、ベンチを置いても構わない。公園の中にスターバックスを置いても構わない、みんなで楽しく使おう」というように変わっている。そういう議論をずっとやってきているんです。

日本中のまちにはそれぞれの歴史と経緯と特徴がある。だから、全て同じように都市計画とかのビジョンを全てのまちに当てはめる必要はない。例えば道東に来た首都圏とか関西の人達は、「なんでこんなに自然が豊かなんだ」と。団地の中とかタワマンで生まれた子供は、知床で夕日が水平線に沈んでいくのを見たときに、涙を流すっていうのです。子供たちは、団地で隣の家の窓を見て、朝日、夕日、水平線を見たことが無かった。それでこっちに来ると、感動する。それは、自分たちの景色がきれいなのではなくて、自分たちの心、十分な感性を育てていく場所ではないと自分は育つたと親も反省するし、子どもも感動して、もっと違うところに住もうよという話になる。そういう状況はすごく力ですよ。人を育てていく力というのは、道東、中標津は力があります。そういうのをプライド持って。

ただ、少しずつ良くしていかないといけない。医療や福祉、道路、除雪の問題も解決していかないといけない。それが「アジャイル」。目標を高々と掲げて、それに邁進する世界ではないと、みなさんもう少し理解していただければいい。30年前の法律に基づいて、目標を高く掲げて実行するという形の都市計画マスタープランはこれまで中標津はやってきました。だけれども、アジャイルな都市計画マスタープラン、臨機応変に変化、進歩させていくマスタープランであることが重要になってくるんです。ですから、今まで8回やってきましたけれど、それを全部責任持ってやるというのではなくて、これから進行管理をしながら、少しずつ変化させて、出来ないものはできない、これが重要になってきたよねというように、日々変えていける、進化させていける。そういうふうには是非思っていたきたいのです。

ですから今日で終わりますけれど、全体的に見たときに間違いはないか、抜けているものがあるかと思われるかもしれませんが、抜けていても良いのです、後で加えれば。そんなふうに是非思いながら、気楽にと言ったら変ですけど、全てが自分たちにかかっていると思わないで、次の世代の人たちの意見を加えながら、アジャイルな内容の都市計画マスタープランにすることを意識していただいて、気楽に意見交換していただければありがたいと思います。

**※アジャイル（英：agile）**

「俊敏な」「すばやい」という意味。ソフトウェア開発手法で要求仕様の変更などに対し機敏かつ柔軟に対応するための方法。技術革新や企業環境の変化に即応するため、徐々にすり合わせや検証を重ねていくというアプローチをとる。

### 3. 議事

#### (1) スケジュールについて

＜中標津町より策定スケジュールについて説明＞

#### (2) プロジェクトチームの検討結果について

＜㈱ドーコンより、プロジェクトチーム検討結果について説明＞

#### (3) 計画素案について

＜㈱ドーコンより、計画素案について説明＞

(ドーコン生沼)

これから、素案に基づきながら、各会議室に分かれてグループディスカッション、意見交換できればと思います。

(小林委員長)

これは事務局にもコンサルにも誰にも言っていなかったのですが、住民、住民とよく出てきますが、中標津の経済を引っ張っている、あるいは雇用に対して責任を持っている企業ってあるじゃないですか。企業も町民なのです。まち全体を良くしていく上で、企業町民というのをどうして考えないのか。雪印あります。丸山公園があります。じゃあ丸山公園に対して雪印はどれだけ応援してくれるのか、あるいは社員が関わってくれるのか。住んで生活をしてコミュニティを維持している町内会の人だけが住民じゃないんです。企業も住民ですから、その辺も加えて、これからどうやって進めていくのか考えて行ければと思います。よろしくをお願いします。

(佐瀬係長)

ディスカッションに入る前に、事前に資料を配布した東田委員から、皆さんにお願いということで頂いておりますので、そちらを紹介したいと思います。

東田委員からは資料の 19 ページについてお願いというか意見がありました。19 ページには、歴史資産だとかそういったものが書かれているんですけども、現在中標津町の文化材保存活用地域計画の策定を、計画の協議会と調査部会の方で進めているというところで、こちらは今年を入れて3年間計画づくりになると、この協議会の中でも、図にあるようなゾーン名だとか、色々考えているということで、現在検討中ということです。これは、教育委員会の事務局ですとか、委員内で検討中というところで、図はわりと線引きしっかりしていますが、あくまで案ということで示していますので、図は差し替えますが、こういうことを今考えているということで、都市マスの皆さんにおかれましては、今進めている計画の整合性についてご理解いただけますようコメント頂きました。以上です。

<中標津町より、班分けについて説明後、グループディスカッション実施>

(ドーコン生沼)

それでは、皆さんお戻りになられましたので、各班からどんな意見があったか、それぞれ館下副委員長と佐々木副委員長から発表いただければと思います。まず、301号室の館下副委員長の方から発表をお願いします。

(Aグループ 館下副委員長)

私の班の発表をさせていただきます。

やはり、先生の言っていたアジャイルな計画がこれから大切なんだと、今回の会議をやって、つくづく思っております。計画といっても、やはりコロナ禍の中で多様化して、色々修正しながら考えていくべきだと思います。

色々なことが出たんですけど、農業関係ということで、この計画書には農業関係が足りないのもう少し追加して欲しい。それと、これからこの地域は大きな災害の起こる地域な

ので、災害対策なども必要ではないかということが追加すべきことと、学校のあり方ということで、計根別学園みたいに9年生の学校の制度ができましたので、街の中もこれからは東小の関係と中小の関係も9年生が進んでいくことについて必要ではないか※。それと、外国人がこれから増えるので、外国人との共生ということでまちづくりが必要ではないか。

それと、秋山さんの方から、やはり人口を増やすことを目指した中で計画していないといけないのではないかという意見が出ました。私の意見としては、商工会の加盟が730あります。商工会に入っていない企業が約300あるわけですけど、中標津という町は酪農だけでなく、商業的にも全道で優秀な、ベスト4に入るくらいのまちなので、それを踏まえながら、まちづくりを進めていきたいなと思っています。



僕の意見としては、北方領土の後継者の役割をやっていますので、国からも多くの北方領土の資金が入っていますので、是非、北方領土の関係も入れながら、返還運動を中心としたまちづくりも中には踏み込んでほしいなと思っています。以上です。

#### (Bグループ：佐々木副委員長)

佐々木です。よろしくお願いします。今日のグループディスカッションのテーマですけど、計画の実現・推進のための方策（主に第4章）について話し合ってくださいということで、改めて要望するとか、そういうことではなく、これをどうやって進めていくかについて、話が出てきました。

まずは、今回作ったところのツボ、7つあります。その中で5つのプロジェクトチームができました。残りの2つはどうするのか、どうやってフォローしていくのか、ということがありました。その中で、文化・歴史的なところはもうやっているの、それはフォローできるのではないか。それから空港の方はどうするんですか、というのが一つありました。

それから、プロジェクトチームの活動を発表する場が要るのではないかということで、できれば一回やりましたフォーラムだとか、対話の場だとか、出来るか分かりませんが、都市マス通信もこのまま続けていければという話がありました。

それから公共交通とか街なかとかは、これから先どんどん進めていきたいと、3年間計画に携わってきたけれども、プロジェクトチームに携わって、ようやくやるべき方向が見えてきたという方もいました。

それから、全体を進めるうえで大事なことということで、庁内連携の強化ということが出てきました。というのは何かをやろうとするとき、どうしても一か所の部局にいつてしまう。それだと解決にならない。横断的に話し合ってもらって、解決に向けて、行政に動いていただけると少し楽じゃないか。それにはどうしたら良いかということで、部長職だけでなく課

長職の人も会議を推進していけばいいという意見が出ています。

次に、都市マスですが、総合計画があって都市計画マスタープランがあります。今は総合計画を実は一緒にやっているんですけども、出来上がりが都市マスより遅れるかもしれない。今回はしょうがないが、次回は順番が逆にならないようにしたいので、できれば、期間をずらしてやればいいのかという意見が出ました。

それから、まちづくりの担い手というのは、町民、企業、行政、団体ということだったんですけども、自治基本条例というところでは、議会というのも入っているんです。今回は入らなくてはいいいんですかという話になりましたが、これはちょっと『?』ということで多分ダメじゃないかと。

それから最後に、今回の計画書は非常に柔らかく文言が書いてあり、細かいところまでよくできているという意見もありました。以上で終わります。

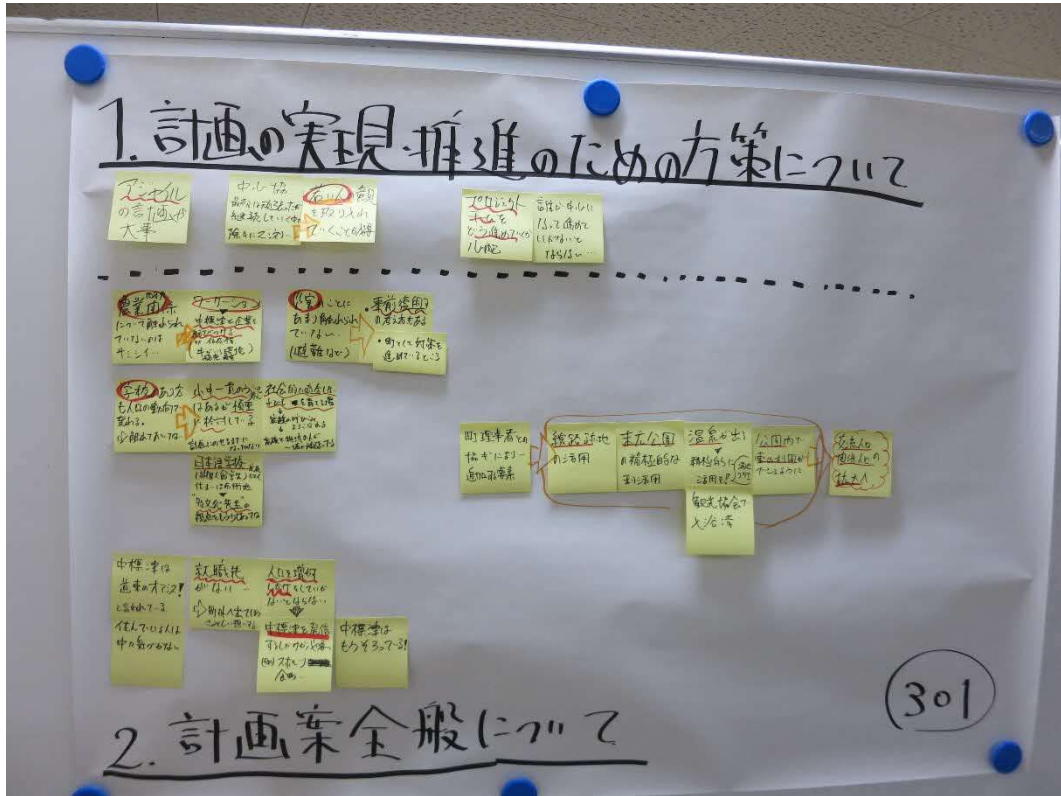


#### ※小中一貫教育

平成27年(2015年)に小学校と中学校の9年間の義務教育を一貫して行う小中一貫校を制度化する学校教育法等の一部を改正する法律が成立。義務教育学校という学校種に規定された。

中標津町では平成27年度に計根別小、西竹小、計根別中が統合し一貫校が誕生。翌年度から義務教育学校としてスタート。中標津市街地の学校も中標津町3学園構想に基づき、令和2年度(2020年)から施設分離型の小中一貫校として中標津学園(中標津小学校、丸山小学校、中標津中学校)、旭ヶ丘学園(東小学校、広陵中学校)制度を導入している。

写真：意見交換の内容（Aグループ）



写真：意見交換の内容（Bグループ）





<テーマ1：計画の実現・推進のための方策について>

表 委員からの意見（テーマ1）

グループ	意見
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アジャイルな計画が大事。</li> <li>● 中心部地域街づくり協議会は最初は頑張っていたが、継続していく中で徐々にマンネリ化してしまった。若い人の意見を取り入れていくことが必要ではないか。</li> <li>● プロジェクトチームは誰かが中心になって進めていかないとならないのだが、どう進めていくか心配。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プロジェクトチームになっていないツボへのフォローが必要ではないか。</li> <li>⇒他の組織でやっている計画もあるので、上手に役割分担や情報共有をするべき。</li> <li>● プロジェクトチームの計画を持続的にどう動かしていくか計画に盛り込むべき。</li> <li>⇒プロジェクトチームの活動の発表の場、対話の場のような機会があるといい。都市マス通信で継続的に知らせるのはどうか。</li> <li>● 公共交通のプロジェクトは、実際に公共交通に乗っている人の意見が出ないのが課題。</li> <li>● もっと街なかを歩いてみて中標津の課題を実感してみたら良いのではないか。</li> </ul>



<テーマ2：計画案全般について>

表 委員からの意見（テーマ2）

グループ	意見
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 酪農・農業関係に触れられていないのはさみしい…。伝成館や酪農産業を生かして、中標津と企業を結び付けて、ワーケーション環境を推進していくのはどうか。</li> <li>● 災害のこと（避難など）にあまり触れられていない。 ⇒災害については、事前復興の考え方がある。 ⇒町としても対策を進めている。</li> <li>● 学校のあり方も人口の動向で変わるであろうし、触れておいてはどうか。 ⇒小中一貫制度も慎重に検討しているが、計画に載せるまでに至っていない。（※P6 参照）</li> <li>● 日本語学校ができて、外国人留学生が市街地に住む。多文化共生の視点ももう少しあっては良いのではないか。</li> <li>● 中標津は道東のオアシスと言われているが、住んでいる人は中々気が付かない。</li> <li>● 就職先がないので町外に出てしまいさみしい思いをする。</li> <li>● 人口を増やす仕掛けをしていかないといけない。中標津を発信する仕掛けが必要。（スポーツ、食べ物など。中標津はもう揃っている！）</li> <li>● 町理事者との協議により追加する要素として、線路跡地の活用、末広公園の積極的な利活用、温泉資源の活用、公園内での車の利用などがあり、これによって交流人口、関係人口の拡大につなげる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 何かをやりたいと言われたとき、庁内の部局を跨いだ横断的な連携が取れば、スムーズに事が運ぶのではないか。 ⇒部長級の職員だけでなく、課長級職員による会議を推進してはどうか。</li> <li>● 次の計画見直しの際には、総合計画→都市マスの順番にすべき。そのために計画期間など調整すべき。</li> <li>● 関係団体として、具体的な固有名称を出してはどうか。（社会福祉協議会、教育委員会など） ⇒他の団体に気を使ってこういう表現にしている。 ⇒それはわかるが、できたら入れてくれたほうが、動きやすい。</li> <li>● まちづくりの担い手として、議会は入れないのか？ ⇒「議会」はあくまで審議の役割。</li> <li>● 「まちづくり」ということがプロジェクトチームとして具体化されてよく分かった。</li> <li>● プロジェクトチームの結果をうまくまとめる必要はないのではないか。</li> </ul>

(ドーコン生沼)

頂いた意見を踏まえて計画書に反映させていきたいと思います。今後、プロジェクトチームを進められるか不安の声もあったので、皆さんでフォローしながら進めていければいいなと思います。それではここで小林委員長にお返ししたいと思います。

(小林委員長)

議事3まで終わったので、その次に、その他事項というところで、ご説明いただこうと思います。

#### 4. その他

(天野課長)

皆様、大変お疲れ様でした。小林委員長、議事進行ありがとうございました。

先ほどスケジュールの説明で出てきましたけれど、今後パブリックコメントの期間を設けて、議会の議決を得ていくという流れになります。特段の修正が無ければ今回のような皆さん一堂に会しての審議は本日で最後ということにして、お忙しい中、時間を調整してご参加いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。最終的には計画書として、3月～4月頃になるかと思いますが、皆様のお手元に配布したいと思います。

冒頭先生が仰っていましたが、計画を作って終わりではなくて、今後いかに確実に実践していくかということが大切になるかと思っています。本を発行するのは中標津町、行政ですが、これは行政だけで実践していくものではなくて、町民の皆さまとともに実践していかなければいけないと思っております。まさにこの本は、町民の皆さんのやりたいこと、アイデアが詰まったものでありまして、それに行政もいかに寄り添っていけるか、一緒にやっていけるかというのが重要だと思っております。今後とも皆様のご理解ご協力を賜りたいとお願いを申し上げます。

繰り返しになりますが、一堂に会しての審議はこれで最後ということで、ここで大役を担っていただいた委員長、副委員長からご感想を交えてご挨拶をいただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。館下副委員長からお願い致します。

(館下副委員長)

皆さんご苦勞様でした。拙い副委員長ということで、コロナ禍ということでなかなか集まっていたの活発な意見が出来たのか心配だったんですが、とりあえず2年間終わりました。本当に皆さんご苦勞様でした。

(佐々木副委員長)

皆様お疲れ様でした。というか、これから最後まで少しかかるとは思いますが。

私自身、静岡の掛川に視察に行かせていただき、そのとき対話の場、市民ファシリテータを知りました。それが2月のフォーラムで実現できたのは良かったと思います。その人たちが集まって、また今プロジェクトチームが立ち上がっています。これが是非継続されるようになっていけばと思います。私自身もう65ですから、あと10年間できるか分かりませんが、できる限りまちづくりに協力させていただきたいのでよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

(天野課長)

ありがとうございました。それでは、小林委員長、よろしくお願いします。

(小林委員長)

皆さんありがとうございました。

今考えていることは、世界の行政や経済界のトップ、金融の人がすごく気にしていることの1つに、毎年2月にスイスのダボスで開催される世界経済フォーラム、通称ダボス会議があるんです。新聞を見ると、菅さんがカーボンオフセットの話、AIを使った社会をどうするかという話が出てきますけど、この間のダボス会議で、第5次産業革命というのがひとつのキーワードなんです。ITの技術を使いながら、新しい産業、新しい社会を作っていく産業革命の真っ只中にいるよと、それに対してどういうふうに世界が動いていくのか議論したんです。日本はそれを受けて society5.0 を施策の1つに出して、例えばハンコの話を含めて色々変わっているんです。

2021年はコロナなので、2月にしないで6月にするんです。今回はネットでシンポジウムをすることがいかに簡単か、皆さん分かったので、ダボス+400か所。ダボス会議で強いメッセージが出るんですが、ものすごい勢いで世界を駆け巡ると思うんです。多分新しいアメリカの大統領も参加すると思います。そのメインテーマは「グレートリセット」なんです。これまでの考え方、例えば欲望のまま流れてきた資本主義が本当にいいのか。もっと人間的に判断しなければいけないのか、人間的なことを意識して考えなければならないのではないのか、これまでの100年とこれからは全然違うぞというメッセージが出てくると思うんです。そうすると、世界中がものすごく変わると思うんです。色々な面で。

ですから、これまで2年間やってきたけれども、これから見直ししたり、別なものを付け加えるのが総合計画も都市マスも出てくると思うんです。一応、今回で行政の役割、予算を付けて、皆さんに参加していただいて、それをドーコンの人たちがまとめて魅力あるものにするという「作業」としては終わりです。どなたかおっしゃったけれども、プロジェクトチームが出来たとき、その人たちだけでやるのか。渦をどんどん広げていって、新しい考え方、新しい価値、新しい力にしなければいけないなど、色々な面でグレートリセットは影響してくると思うんです。ですからプロジェクトチームとかそういう人たちが中心になりながら渦をどんどん広げていくことが必要になるし、多分考え方が色々出てくるし、政府自体が考え方をガラッと変えていくと思うんです。ですので、この都市マスの内容も進化させていく必要があるんです。でも行政は予算がないんです。こういう委員会作れない。だけど何かしなければいけないので、工夫してこれから推進していく体制を作らないといけないと思います。それは佐々木さんと館下さんに色々とお考えを伺いながらやりたいと思います。そういう余地を残していただいて、臨機応変に皆さんのご意見を伺う必要があるときには、報酬は出ないんですけど、来ていただくことになるかもしれません。予算と時間の範囲で一応終わりますけれども、これからが大事なので、佐々木さん館下さんと相談しながら、進化させていくことでいいでしょうかというお願いをしながらお礼を申し上げたいと思います。

## 5. 閉会

(天野課長)

ありがとうございました。皆さんの委嘱期間は3月までとなっています。引き続き期間は残っていますので、これからも都市マスを推進していくために、皆さんのお知恵ですとかお借りしながら進めていきたいと考えております。

予定していた時間を若干超えました。新型コロナウイルスとの戦いは長期化していますが、皆さま方におかれましても体調管理にお気をつけいただきたいと思います。以上を持ちまして、第7回中標津町都市計画マスタープラン策定委員会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。